

# 新市長と新議員に 当選証書を付与



市長選挙、市議会議員補欠選挙が終了した翌八月十日、市長選挙で当選した小平英哉氏、市議会議員補欠選挙で当選した近風藤枝氏、足立広文氏に対する当選証書付与式が行われました。

午前十一時、市役所大会議室で始められた付与式は、小久保充夫選挙管理委員長からそれぞれに当選証書が手渡され、「市民の期待にこたえて、市政発展のために努力してください。」とあいさつがありました。

当選証書を受ける小平新市長

このあと、三人の当選者は、

## 長い間、ご苦勞さまでした 職員の拍手に送られて退任

### 斎藤前市長



8月24日、退任のあいさつ  
のあと、38年間過ごした庁舎  
を去られた斎藤前市長。

お礼のあいさつと決意を述べて式は終わりました。

続いて行われた祝賀会では、選挙管理委員会の各委員、議会を代表して榎本議長、登坂副議長、市から上吉原助役、

神山収入役、各課長らが出席し、短い時間でしたが、当選者を囲んで歓談がありました。

小平英哉氏は、前市長の任期が満了した八月二十八日に第四代の市長に就任し、近風氏、足立氏両議員は、九月定例議会が初議会となります。

### 上吉原助役

### 神山収入役

#### 8月27日で 退任

#### 退任

日光市助役上吉原元次氏(62)と日光市収入役神山宏氏(67)は、一身上の都合により、八月二十七日付で退任されました。上吉原氏は、四十二年間、神山氏は、三十四年間の永きにわたり、公務員として日光市のためにつくされました。

### 市長退任

#### あいさつ

### 斎藤善蔵



昭和五十六年八月、市長就任以来八年間、市民の福利の向上と市勢発展のため微力ではありましたが、一生懸命に努力をして参りました。

議会の良識あるご指導、市職員の絶大なご協力、市民の方々の温かいご参画と、国県を始め関係機関のご教導、ご高配に対し、衷心より厚く御礼を申し上げます。

私達日本人がかつて経験したことのない終戦以来、多くの先人達が営々として築いて来られた市勢の基礎の上に立って、激しく変動する国際情勢、社会構造、或いは経済を見極めながら市民参画のもとに、昭和五十七年、高い視点から「望ましい日光市の未来像」の策定をいたしました。

爾来、多くの関係機関の指導、協力を得て、短期的な事業は既に完了し、中長期的事業も着手されました。

昭和六十三年、全国で四番目の承認県となった栃木県の「日光・那須リゾートライン構想」の大きな一翼を担う日光市に、



上吉原元次氏



神山 宏氏

〔上吉原元次氏〕  
昭和二十二年日光町役場勤務。商工、秘書、学校教育兼社会教育、人事の各係長を経て、会計課長、企画課長、総務課長、保健衛生課長を歴任。昭和五十六年から助役。

〔神山宏氏〕  
昭和三十年経済観光課勤務。議会議務局議事係長を経て、議会議務局長、教育課長、図書館長、中央公民館副館長、観光課長、観光商工課長を歴任。昭和五十六年から収入役。

渡辺県知事の特段のご配慮により、数多くの補助事業、県単独事業が着手され、或いは実施に向けて計画が決定されています。これと拮抗して「日光リゾート開発株式会社」が本年六月十三日、発足いたしました。

日光市にとって、平成元年は、リゾート元年であると言えます。

七年前に掲げた「国際観光リゾート文化都市日光」の銘題に向けて実現化しつつあり、今後の進展は期して待つべきものと信じています。

昭和二十六年、奉職以来、人生の大半を市行政の中でご奉公させて頂きました。

上水道、下水道、橋梁、都市計画の設計施工等、技術職として十九年、助役として十年、市長として二期八年、想い出深い年月でありました。

お陰様で数多くの市民の方々は勿論、広い分野の諸賢との温かいご厚誼、ご指導を頂き、大きな充実感と満足感を味わっています。

今後共にご教導をお願いいたします。

国際化、高齢化、高度情報化社会を迎えて高度化をし、多様化が余儀なくされる行政需要に、高い識見と、情味ある対応をし、潤い溢れる文化度の高い日光市の更なる充実と発展を心からお祈りして離任のあいさつといたします。